

鹿屋体育大学倫理審査小委員会 オプトアウト書式

今回の研究の実施にあたっては、鹿屋体育大学倫理審査小委員会の審査を経て、許可を受けています。この研究が許可されている期間は、令和12年5月30日までです。

①研究課題名	「マイノリティ・アスリートのエスニック・アイデンティティに越境が及ぼす影響についての考察」
②対象者及び対象期間	日本で生まれ、長じてアマチュア野球のトップレベルである実業団に進み、その後、北米トップリーグ MLB のスカウトによりトライアウトに参加した在日コリアンの元選手。 インタビューは2022年7月に実施した。
③概要	本研究においては、ひとりの在日コリアンの元野球選手に現役生活を振り返ってもらったインタビューをもとに、プロアスリートとしての渡米経験が、自身の奥底に押し込めていたコリアンとしてのアイデンティティが再活性化された様子を分析する。
④研究の目的・意義	グローバル化する世界において人々の越境がその数を増す中、移民のアイデンティティにスポーツがどう影響しているのかを探る。 「移民」を巡る議論が盛んになっている我が国において、かつては最大のマイノリティグループであった在日コリアンは、今や日本社会の構成員として定着している。しかし、「差別問題」はいまだやまず、彼らのアイデンティティは複雑なものとなっている。日本における人気スポーツである野球界には古来多くの在日コリアン選手が存在し、近年では自らの出自をカミングアウトする者も少なくない。本研究を通して、あるひとりの在日コリアン選手の渡米により変容したエスニック・アイデンティティを探ることにより、今後のますます増えていくであろう日本社会におけるマイノリティのアイデンティティ研究に一石を投げかけたい。
⑤研究期間	承認日～令和12年5月30日まで
⑥情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	すでに執筆活動において集積した情報を、アスリートの移動研究において新たな知見を提示する資料として利用する。その情報は、当方が著述家であるとともに研究者であることを伝えた上で行ったインタビューによって知りえたものであり、匿名性を高めた上で論文執筆に利用する。
⑦利用または提供する情報の項目	・被験者に対する半構造化インタビュー （インタビュー内容） 1. これまでの生い立ち、競技経歴 2. プロとしてのプレーまで過程、プロでの報酬や待遇 3. 国外でのプレーの場を見つけた方法 4. 日本では「日本名」でプレーしながらも、渡米後はコリアンネームに変えた心境と環境の変化
⑧利用の範囲	鹿屋体育大学 スポーツ人文・応用社会科学系・准教授 石原豊一
⑨研究試料・情報の管	鹿屋体育大学 スポーツ人文・応用社会科学系・准教授 石原豊一

理について責任を有する者 (お問い合わせ先)	Tel : 0994-46-4871 E-mail : t-ishihara@nifs-k.ac.jp
⑩事務局	鹿屋体育大学 研究・社会連携課 研究支援係 Tel : 0994-46-4878 E-mail : kokusai@nifs-k.ac.jp

以下は、過去に承認されたことがある場合

⑪承認番号	
⑫過去の研究課題名と 研究責任者	